2025 年 2 月 12 日
日本船主協会　企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～埼玉県と東京都内にて出前授業および海事施設の見学会を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、埼玉大学教育学部附属小学校の 5 年生 105 名を対象に、1 月 16 日（木）に出前授業を実施し、1 月 22 日（水）に川崎汽船、商船三井、日本郵船の協力を得て大井コンテナターミナル（以下大井 CT）の見学会を開催し、その後の東京港見学にも同行しましたので、その様子をお知らせします。

【出前授業概要　（1 月 16 日）】

大井 CT をはじめとした東京港での社会科見学の事前学習として、まずは身近な飲食店や衣料品店を例にして、身の回りのものの多くが外国から船で運ばれ、港を通って児童たちの手元に届いていることを紹介しました。その後、コンテナ型の小物入れや動画、ワークシート等も活用しながらコンテナおよびコンテナ船に主眼を置いた内容で授業をすすめ、船が運河や海峡を通って、衣服や家具をはじめとする様々な貨物を東京港に運んでいることを説明しました。

出前授業の様子

【大井 CT 見学会概要（1 月 22 日）】

大井 CT では、①管理棟屋上から CT 全景を見学した後、②バスでターミナル構内を見学しました。

①　管理棟屋上から CT 全景を見学

大井 CT に到着後、3 台のバスは夫々3 つのターミナル（大井ふ頭 1・2 号、3・4 号、6・7 号）へ向かい、はじめに屋上からターミナル全景を見学しました。コンテナが整然と積まれ、大きなクレーンが素早くコンテナを積む様子や、トレーラーによるコンテナの搬出入などの様々な作業が同時に行われている様子を見学し、普段は見ることのない景色に喜んでいる様子でした。

コンテナが積まれているヤードを上から見学

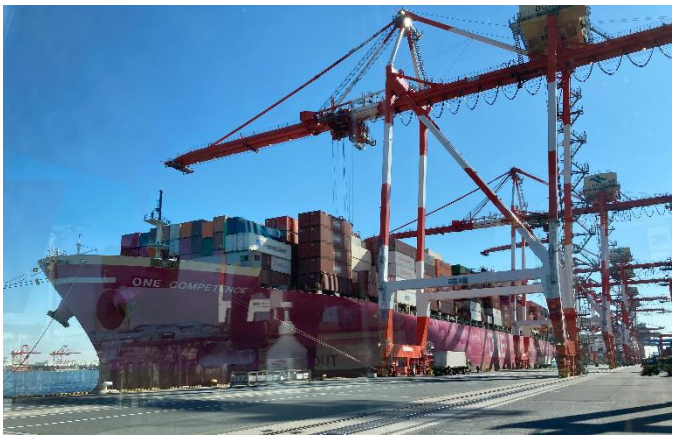
「毎日重いコンテナを持ち上げるので、（ガントリークレーンの）ロープが切れたりしないですか」という児童からの質問には、「ロープは１本に見えるが、８本で束ねられて１本になっています。１本が切れても他７本が支えるから、コンテナは落ちたりはしないので安心してください。ロープは点検、交換もしています。」とターミナル担当者から回答があり、児童は学びを深めていました。他にも、「積み上げているコンテナが倒れることはあるか」「クレーンの運転席はどこにあるか」「コンテナ一つを積むのにかかる時間はどれくらいか」「働き方改革の影響はあるか」など様々な質問が挙がりました。

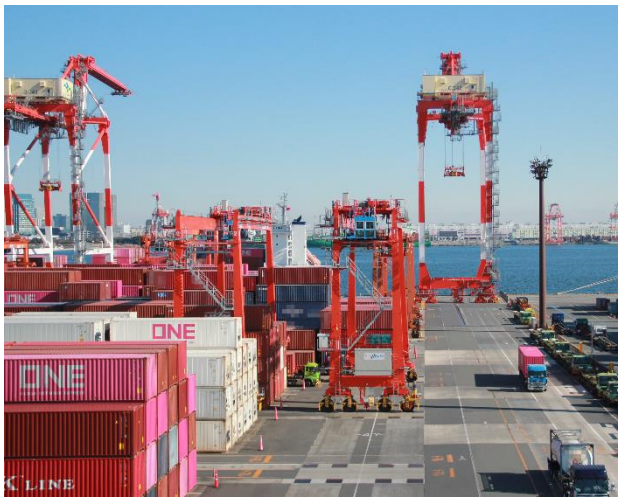
（左）ターミナル担当者の説明を聞く児童　（右）ターミナルを屋上から一望

② バスでターミナル構内を見学

屋上見学の後は、バスに乗車してターミナル構内を一周し、車内からターミナルを見学しました。植物検疫場や、トランスファークレーンがレーンを移動する様子、ガントリークレーンがコンテナを持ち上げて船に積み込む荷役作業などを間近で見る事ができました。特に、荷役中の船の横を通った際には、あまりの船の大きさに児童たちは大変驚いていました。ガントリークレーンでコンテナを持ち上げる様子を間近で見た際は、「おぉ～～！」と歓声があがり、ガントリークレーン運転士の迅速かつ緻密な操作技術に圧倒された様子でした。

重いコンテナを持ち上げるトランスファークレーン





（左）全長約 300ｍの船の荷役作業を間近で見学！
（右）天気に恵まれ、ターミナルの様子をよく見渡せました

【「TOKYO ミナトリエ」の見学と水上バスでの東京港見学概要】

大井 CT 見学後は、東京臨海部広報展示室「TOKYO ミナトリエ」にバスで移動し、東京港の歴史や、現在の港の姿についての展示を自由に見学しました。動画や模型を熱心に見る児童の姿が印象的でした。

ミナトリエ見学後、有明船着場から水上バスに乗船し、東京港のフェリーふ頭や、青海コンテナふ頭、大井コンテナふ頭、クルーズターミナル、品川ふ頭、芝浦ふ頭などを海から見学しました。水上バスからは、フェリーや RORO 船、コンテナ船やセメント船など様々な種類の船を見ることができ、普段は間近で見る機会の少ない「船」に興味を持ってもらう良い機会になりました。

コンテナに関する展示を見る児童

（左）ターミナルに停泊していたフェリー　（右）コンテナを積んだトレーラーがそのまま乗り込める RORO 船たち

午前中に見学した大井 CT を海側から見学

当協会は引き続き、会員会社や海事関連企業などと連携しながら、海事産業をより教育に取り上げてもらえるよう広報活動に注力してまいります。

以上